

# 平成 30 年度大島地区道徳教育研修会

道徳教育の基本的な指導の在り方及び指導上の課題について、授業実践を通じた研修を行い、道徳教育の一層の充実に資することをねらいとし、本年度は『特別の教科 道徳』の授業において、子どもたちが自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して自己の生き方について考えを深める指導法は、どうあればよいか。」というテーマを基に、よりよい授業の在り方について追求しました。

○対象：大島地区小中学校道徳主任又は係

○期日：【朝日中学校】5月29日（火）、【神之嶺小学校】6月22日（金）

— 主に次のような工夫が見られました —

<奄美市立朝日中学校>

- ・ 一人一人の意見を引き出すための効果的な発問（「家族」ってどんな存在？ など）
- ・ 多面的・多角的に議論させるための働きかけ（ICT や自作教材の活用、役割演技 など）

<徳之島町立神之嶺小学校>

- ・ 自己を見つめさせる発問（自分ならどうするか、その理由は？ など）
- ・ 交流の場の工夫（黒板前に集まり、意見を共有する。名前カードを貼る。 など）



学習班で円滑に話し合いを進める



役割演技で心の声を引き出す

— 学びの声（一部抜粋） —

- ・ 「班活動の雰囲気が大変よかったです。個人でじっくり考える時間をもった後で、班で議論すると、更に深まりが出ると思います。」
- ・ 「小規模校においては、ICTなどを活用して、体験的な活動を取り入れていく必要があると改めて感じました。」
- ・ 「深い議論を進めるために、事前に教材を読んでこさせるのもよい手立てではないかと思いました。自分でも実践してどのような成果が得られるか分析したいと思います。」
- ・ 「心の様子を可視化するハート図の活用など、今後どのような教具が効果的か実践を通して分析していきたいです。」